

第6回ホリスティック医療塾報告書

テーマ：たましいを考える

日時：2013年7月28日（日） 午前10時30分～12時

場所：関西医科大学滝井病院 南館2階臨床講堂

司会・報告：愛場庸雅（日本ホリスティック医学協会関西支部）

第6回のホリスティック医療塾は、「たましいを考える」というテーマで、自由討論形式で行いました。参加者は、医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、マッサージ師、カウンセラー、ヒプノセラピスト、鍼灸師と様々で、全体で十数名でした。自ら経験した事例などを紹介してもらいながら、自由に討論しました。

「たましい」というと、人によってそのイメージは大きく異なりますが、ホリスティックな人間観には必要な概念です。単に信じる、信じないではなく、他人はどのように考えているのかを理解し、「価値観の異なる人とどのように向き合い、どうかかわっていけばよいのか？」ということ学ぶことを大きな目的としています。以下に出てきた話しの一部を、複数の人の意見をまとめた形でリストアップします。

- ・たましいとはエネルギーか？ なんらかのエネルギーがあると思う。周波数で何が憑いているかを診断できる。「言霊で癒される」ともいう。気が枯れるとケガレつまり穢れにつながる。
- ・「何かか憑いている」と言うが、「疲れた」というのは実は「憑かれた」のかもしれない。何かか憑くという以外に、生まれ持った霊障というものもある。
- ・その人の心が大事で、生活を変えると魂も癒されるということもある。がんの自然治癒に心がか関係していると言われるが、たましいや霊障などを「信じているかどうか」も関係するのではないか。
- ・肉体、心、たましいをトータルで考える必要がある。手当をしている過程でわかって来ることもある。波動をはじめとして色々な方法でアプローチするが、「その人が、なにでかかわった時に最も入り易いか、納得感があるか」で考えるのが大切だと思う。
- ・前世療法というのは、本当の前世かどうかはわからないが、そこに気づきがあり、癒しが起きたりする。自分は霊能者ではないが、守護霊がいるというのはわかる時があり、見守られているという感覚もある。人が亡くなる時には、みんなこだわりを捨てて亡くなるという印象がある。
- ・「正気・邪気」「守護霊・悪霊」といった二分法とか、「高級霊・低級霊」というランキングというのはよくないのではないか。一見悪く見えることにも何か

のメッセージがあるかもしれない。腸内細菌の働きのように、良い悪いと決めつけてしまうと問題が起こる。交感神経と副交感神経、怒りと愛のように、両者のバランスが大切。それとどういう風にかかわってゆくかが大事。

・明治維新以来、精神性より物質性を重んじたために、認められない世界になっているが、本当は信じている人も多いのではないか。皆がもっと認めれば、医学も変わるのではないか。また見えない世界の法則性というものを知る必要がある。現実の医療現場ではここまで踏み込めない。未病の段階での対応、自分たちの人間性を高めること、皆の意識のレベルを高めることが大切。

などなど、普段の場では話せないようなことを語り合う機会が持てたことで、改めて、認識を深めることが出来たように思います。